

魅力ある学校づくり

～不登校・いじめの未然防止のために～

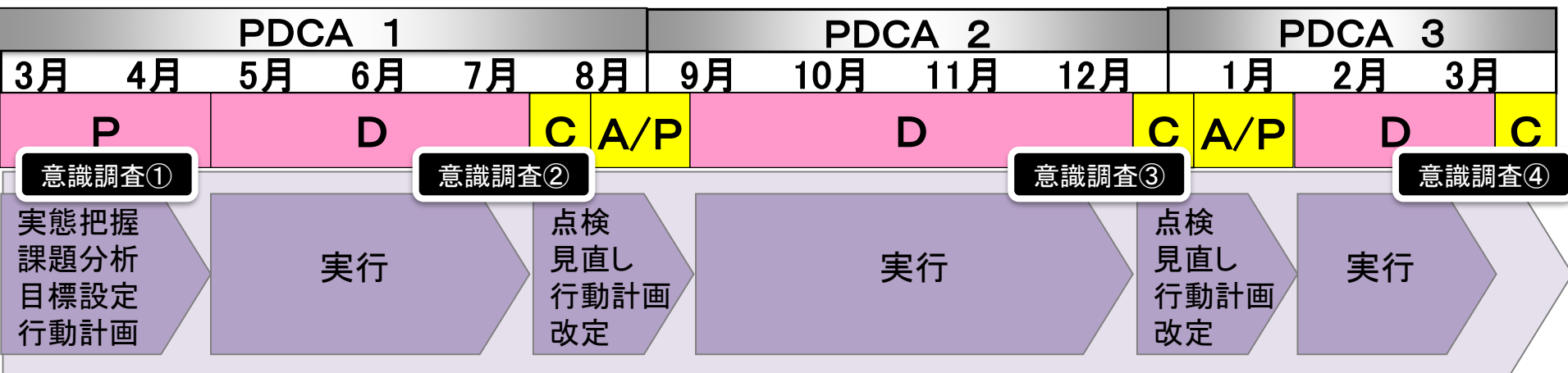
不登校という事象に対して学校がまず取り組むべきことは、全ての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じ、学校を休みたいと思わせないような、日々の学校生活の充実です。どの児童生徒も落ち着ける場所をつくること(居場所づくり)、全ての児童生徒が活躍できる場面をつくること(絆づくりのための場づくり)が鍵になります。

(国立教育政策研究所「生徒指導リーフLeaf.14 不登校の予防」より)

観点	取組の視点(対象)	主たる取組
未然防止	全ての児童生徒	集団指導

	授業づくり	集団づくり	
居場所づくり	<p>落ち着いて学び、安心して生活することができる学校や学級をつくること</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる・できる」喜びや学ぶ意義を実感できる授業づくり ・学習規律(時間を守る、聞き方・話し方のルールなど)の確立 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことが分からないと言える ・失敗や誤りを認め合える など 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して話せる ・一人一人の個性や良さを認め合う ・話し合いによる問題解決ができる など
絆づくり	<p>主体的に取り組む活動の「場」と互いに認め合う「機会」を通して、自己有用感を高め、心の結びつきや信頼感を感じ取り、「絆」を紡いでいくこと</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流の場や互いの良さを認め合う機会の設定 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の良さが認められる ・一人一人の発言が大切にされる など 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの役に立っている、みんなから大切にされていると実感できる ・思いやりや協力の姿が自然に見られる など

PDCA×3=不登校・いじめの未然防止



実態把握のための意識調査

取組の浸透度の把握

点検と見直しの視点

PDCAサイクル×3

教員の同僚性の向上

- ア 学校が楽しい
- イ みんなで何かをするのは楽しい
- ウ 授業に主体的に取り組んでいる
- エ 授業がよくわかる

4件法

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば当てはまる
- 3 どちらかといえば当てはまらない
- 4 当てはまらない

・「当てはまる」を選んだ児童生徒の増加・維持のために何が必要か？
 ・「どちらかといえば、当てはまる」を選んだ児童生徒を「当てはまる」にするために何が必要か？
 ・「居場所づくり」と絆づくりの違いを理解し、生徒の実態に合わせ**バランスよく**取り組んだか？



居場所づくりと絆づくりのバランスイメージ

教師の主導による活動

生徒の自発的
自治的な活動

居場所づくり

絆づくり